2025 年度外国学校卒業学生特別選考小論文問題（第 1 種）

2025 年 2 月 25 日　9 時 30 分～12 時

科　類	理科二類

受験番号	G					

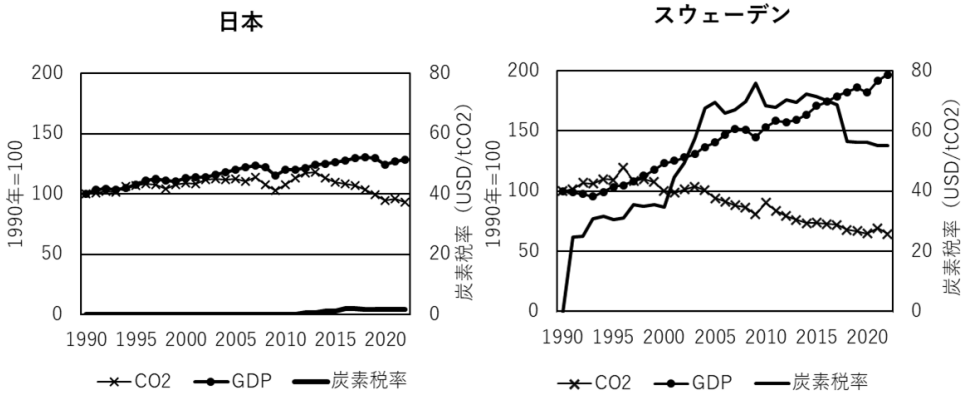
（注意）解答は、A・B それぞれ解答用紙 1 枚で解答すること。

※上欄に、受験番号を記入しなさい。

A（日本語で解答する問題）

二酸化炭素（CO_2）は温暖化ガスの一つであり、地球温暖化の主要な原因物質である。人間活動に由来する二酸化炭素の排出削減を目的とする政策手段として炭素税がある。炭素税は、化石燃料の燃焼によって発生する二酸化炭素の排出量に対して課す税金であり、炭素税の具体的な仕組みや税率は、国や地域によって異なるが、多くの国で採用されている。

先進国の中でスウェーデンは炭素税の税率の高い国、日本は炭素税の税率の低い国である。以下のグラフは、それぞれの国の炭素税率、二酸化炭素排出量、GDP（国内総生産）の推移を示している。このグラフに基づき、炭素税率、二酸化炭素排出量、GDP（国内総生産）の関係を考察し、炭素税の効果について述べなさい。また、二酸化炭素の排出を抑制することを目的とする炭素税以外の方策を 2 つ挙げ、それらの利点と欠点について炭素税と比較して説明しなさい。



出典：環境省「諸外国におけるカーボンプライシングの導入状況等」

B（日本語で解答する問題）

現在、唯一の人類としてホモ・サピエンスが生き残り、繁栄した背景として、異なる種や同種に対する友好的な性質が有利に働いたと考えられている。友好性が種の生存にどのように貢献するのか、具体例を挙げながら説明しなさい。